

## 第3回懇談会における意見一覧

| No. | 会議体         | 主な分野・該当箇所         | 発言者                       | ご意見・お考え（次期計画への検討事項）  |
|-----|-------------|-------------------|---------------------------|--|
| 1   | 第3回懇談会      | 計画体系              | 高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏         | 「SDGs」や「カーボンニュートラル」に真正面から取り組んでいく必要があるのではないかと。2040年の世代はSDGsネイティブの世代である。八王子市に住み続けたいと思っていただくためには必要なことではないか。   |
| 2   | 第3回懇談会      | 計画体系              | 東京都立大学教授 市古太郎 氏           | 「都市像実現のための大きな柱」に記載のある「市民・行政の互いの役割」の文言の「市民」には企業やNPO、市民団体も含まれているのか。計画策定に当たっては、「市民」についてより踏み込んだ説明を記載いただきたい。  |
| 3   | 第3回懇談会      | 計画体系              | 拓殖大学教授 新田目夏実 氏            | 「都市像実現のための大きな柱」は説明の加筆を検討したほうが良い。   |
| 4   | 第4回懇談会      | 計画体系              | 明星大学教授 河合美香 氏             | 長期ビジョンにおける「長期」という言葉に違和感がある。社会潮流の変化に対応すべく、適宜計画を見直すべきなのではないか。  |
| 5   | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿②   | 東京都立大学准教授 杉原陽子 氏          | 姿②には「子どもの頃からの健康づくり」の視点を追加する必要があるのではないかと。「幼少期」といった表現を入れてもよい。  |
| 6   | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿①②  | 下村麻子 氏                    | 20代の一市民からすれば、姿①②の用語はある程度感覚的に理解できる。一方、同じ概念をすべての市民が共有できているかは不透明である。  |
| 7   | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿②   | 法政大学教授 淵元初姫 氏             | 姿②の対象は、高齢者に限定されていると感じる。世代ごとに都市像を結び付けるのではなく、全世代に共通した都市像をそれぞれ掲げるべきではないか。「多様な主体」、「多様な世代」の交流の観点を取り入れる方がよい。   |
| 8   | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿②   | みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏  | 議論を聞いていて、適切な表現は世代ごとに異なると感じた。読み手に想起いただきたい事柄をどの程度まで表現に散りばめられるかが重要である。  |
| 9   | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿①②  | みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏  | 2040年には高齢者の就業拡大が予想されるが、それに伴い、高齢者がボランティアの中心となる現在の市民協働の在り方も変容すると考えられる。社会潮流の変化も考慮の上、市民協働の在り方の検討を進めるべきである。   |
| 10  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿②   | 拓殖大学教授 新田目夏実 氏            | 「切れ目のない」を新たなキーワードとして盛り込んでいかかか。   |
| 11  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 八王子障害者団体連絡協議会代表 杉浦貢 氏     | 姿③には、先天的な障害者に留まらず、仮に中途障害者になったとしても望む暮らしや働き方ができる社会を実現するといった観点を追加いただきたい。  |
| 12  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 八王子障害者団体連絡協議会代表 杉浦貢 氏     | 障害があったとしても悲観的に捉えるのではなく、自分の生活を維持し、前向きに挑戦できるといったニュアンスも追加いただきたい。  |
| 13  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 東京都立大学准教授 杉原陽子 氏          | 姿③の「背景」や「姿に込めた思い」、「方向性」の記載内容は、他の姿と比較して、具体性に欠けているのではないかと。「多様性の受入」で意図している対象者層の像が不明確であり、施策検討のためには不十分である。対象者層として、例えば、病気や障害がある方、貧困層が考えられるが、明記する必要がある。   |
| 14  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 東京都立大学准教授 杉原陽子 氏          | 「バリアフリー」はハード面の整備のみならず、意識醸成が重要である。「ノーマライゼーション」等、意識面におけるバリアフリーを意図した表現が盛り込まれていけばよいと考える。   |
| 15  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿④   | 東京都立大学准教授 杉原陽子 氏          | 就職氷河期世代の対応は喫緊の課題と考えるが、今回の計画では盛り込まれるのか。   |
| 16  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿④   | NPO法人八王子子ども劇場代表理事 浅野里恵子 氏 | AIが席巻する今日において、人間としての成長を育むため、子どもたちにとって、文化芸術などの人間教育が重要と考える。姿④では、そのような観点を盛り込んでいただきたい。   |
| 17  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿⑤   | 八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敬夫 氏    | 姿⑤の「背景」として、核家族化などの世帯構成の変容は重要な観点と考えており、触れていただきたい。   |
| 18  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿④   | 東京都立大学准教授 杉原陽子 氏          | 「ワクワク感」は前向きでよい表現である一方、現実味が乏しく、就職氷河期世代や非正規雇用等、実際に苦しんでいる方々の共感を得にくい表現ではないか。   |
| 19  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿④   | 東京都立大学准教授 杉原陽子 氏          | 「多様な働き方を選択できる」状態以前の問題として、一度失敗したとしても再チャレンジできる環境の整備が重要である。「方向性」にリアリティのある表現を追加いただきたい。   |
| 20  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿④   | 八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏         | 市民ワークショップでは、中高生や一般市民が「ワクワク感」等の表現を多用していた。「方向性」で具体的な事柄が示されているのであれば、現状の表現の方がかえって共感を得やすいのではないかと。具体性と分かりやすさを両立できるよう、上手く併記する必要がある。   |
| 21  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏         | 姿③の「方向性」にある「バリアフリー、ユニバーサルデザインのまちづくりの推進」の実現のためには、やさしい日本語など、ユニバーサル言語ツールを普及させる必要がある。  |
| 22  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿⑤   | 八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏         | 姿⑤の「背景」にある「ヤングケアラー」に関連して、外国人児童・生徒はヤングケアラーになる確率が高く、今後ぜひその対策もお願いしたい。   |
| 23  |             | みんなで目指す2040年の姿③   | 高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏         | 姿③の「背景」にある「多様性の受入」の中には、ジェンダー平等は含まれているのか。   |
| 24  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 東京工科大学大学事務局学務部部長 豊嶋信一 氏   | 市民にとってわかりやすくするため、例えば「多様性」等の表現をある程度明確にする必要があると感じた。  |
| 25  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏        | 姿③に、権利擁護の観点を追加すべきではないか。  |
| 26  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 拓殖大学教授 新田目夏実 氏            | 「希望」に応じた働き方は難しい問題であり、パート等で職場復帰することは出産後の女性が必ずしも望む働き方ではない。現状の問題を正当化しないよう留意する必要がある。   |
| 27  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿①～⑤ | 明星大学教授 河合美香 氏             | 2040年を見据えて、「背景」や「姿に込めた思い」、「方向性」も、それぞれの姿と同程度に尖った表現に意識して作成した方が、市民の理解は進むのではないかと。  |
| 28  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③～⑤ | 拓殖大学教授 新田目夏実 氏            | 「多様性」や「調和」、「多文化共生」等の言葉は、みみざわりのよい言葉であるが、もう少し具体性が必要のように感じる。  |
| 29  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿③   | 拓殖大学教授 新田目夏実 氏            | 姿③の背景にある「外国人人口の増加」は単に現象を述べているに留まっており、政策的な意思が感じられない。  |
| 30  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿①～⑤ | 東京都立大学准教授 杉原陽子 氏          | 理想的な未来を描いた現在のバックキャストの考え方とともに、最悪のケースを想定した「バッドシナリオ」の考え方も取り入れることはできないか。   |
| 31  | 第3回懇談会      | みんなで目指す2040年の姿①～⑤ | 拓殖大学教授 新田目夏実 氏            | 「みんなで目指す2040年の姿」は、分かりやすさを重視したものと具体性を重視したものと分けて考える必要があるのではないかと。   |
| 32  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿①   | 東京都立大学教授 市古太郎 氏           | 「地域サロン」などを担われている地域自治組織の位置づけについて記載したほうが良いのではないかと。   |
| 33  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿②③  | 東京都立大学教授 市古太郎 氏           | 姿②は「高齢者福祉」にフォーカスしたもので良いのか。「障害者福祉」は姿③の内容に包含されているという理解で良いのか。   |
| 34  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿④   | 東京都立大学教授 市古太郎 氏           | 「多様な働き方を選択できる環境づくりの推進」の「方向性」がイメージできなかった。他の項目、他の「姿」に書かれている内容と比較して、イメージが難しい。事務局説明では「シェアオフィス、リモートワークへの対応」といった説明だったが、そうであるならば「環境」ではなく「場づくり」とすべきではないか。その後の議論で、就労支援もカバーする内容で理解したが、そうだとすると、市政として可能な施策について、従来体系とは違った一歩を踏み出す必要性（「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に留まらない）を感じる。 |
| 35  | 第3回懇談会アンケート | その他               | 東京都立大学教授 市古太郎 氏           | 第5、6回懇談会では、「重点テーマと重点テーマの取組方針」とのことだが、「重点テーマ」をうけて「姿」の表現修正も適宜可とする、とした方がよいのではないかと。言い換えると、姿と施策、それぞれが一定の相互作用をもちながら、ビジョンとして纏められていくのがよいのではと感じる。  |
| 36  | 第3回懇談会アンケート | 計画体系              | みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏  | 変化の激しい時代に、2012年議決の「基本構想」を継承することの意義・意味を、どうすれば明確に出来るかと考えています。特に6つの「都市像」と19の「基本施策」を、2040年に向けてのものに出来るかどうか、ここがまだ自分の中ですっきりと納得できていない。これらの柱建と2040年に向けての新たな課題との関係性を考えてゆく必要がある。  |
| 37  | 第3回懇談会アンケート | 計画体系              | みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏  | 基本構想を継承することについては、初めて聞いたときに、私と同様に違和感を感じる市民も少なくないように思う。そのような思いを払拭するための工夫（広報も含む）も必要だと考える。   |
| 38  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿①～⑤ | みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏  | ポストコロナの「まちづくり」、自然と調和する人の暮らし・営み、「利他」的な人と人とのつながり、ICT化、人生100歳時代のライフスタイルと労働などについて、市民からの実験的・試行的なアイデアを引き出し、活かし、市との協働を活性化するシステムをどう構築できるのかという視点からも考えてみたい。  |
| 39  | 第3回懇談会アンケート | 計画体系              | みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏  | 6つの「都市像」について考えるとき、「思い通りにいかないことに耳を澄ます」というような視点も重要だと考える。   |
| 40  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿②   | 法政大学教授 淵元初姫 氏             | 「人生100年時代」を前提に方向性や方針を設定することが適切かどうか、その実現可能性について再検討を要するのではないかと考えた。「健康寿命の延伸を図りつつ」などと言い換えることも可能かと思う。   |
| 41  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿③   | 法政大学教授 淵元初姫 氏             | 姿③をどのように具現化していくのかがわかりづらく感じられた。   |
| 42  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿①   | 下村麻子 氏                    | 2単語目の「ひと」がひらがなであることに強い意思を感じないため、「人と人」でよいのではと思う。  |
| 43  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿①   | 下村麻子 氏                    | 「多様なつながりを実感し」が概念的に弱いと感じる。  |
| 44  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿②   | 下村麻子 氏                    | 「人生100年時代」という言葉が納得感がない。「長生きしたくない」という希望を持つ人もそれなりにおり、それが一般的に喜ばしいことではないのは承知の上ではあるが、そのような考えを持つ人々を置いていく言葉であると感じる。   |
| 45  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿③   | 下村麻子 氏                    | それぞれの個性を認めあうまでには長い時間がかかると思ってしまうため、やや綺麗事感が強いかな、と感じた。  |
| 46  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿③   | 下村麻子 氏                    | 「フィールド」という表現も、目が滑る感じがします。ぱっとみて、理解し、すぐに「ああ、いいな、この街」と思うまでに、なめらかな到達が無い感じがする、という印象を持つ。   |
| 47  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿④   | 下村麻子 氏                    | やや漠然とした言葉に感じる。。ここで「みち」をひらがな表現にしているのは、おそらく「まち」とかけているのだとおもいますが、ここにやはりコンセプトの弱さ、意思の弱さを感じ、素直に「道」でよいのではと感じる。   |
| 48  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿⑤   | 下村麻子 氏                    | 基本的には強く目立つところがないと感じる。「喜び」というワードがハードルを上げていると思うが、「喜びを持って子供を育てる」というのは、目指すべきところではあると思う。  |
| 49  | 第3回懇談会アンケート | みんなで目指す2040年の姿①～⑤ | 下村麻子 氏                    | キャッチーさを含めて再構成するなら、例えば以下のような表現はいかかか。<br>・姿①：人と人で、人と地域で分かち合う住みよいまち<br>・姿②：住み慣れたまちで、健康にいきいきと暮らすまち<br>・姿③：やりたいことに合った場所で、望むように働くまち<br>・姿④：一歩前に踏み出して、チャレンジができるまち<br>・姿⑤：こどもを大切に、安心して子育てができるまち  |